

シラバス

指定番号 _____
商号又は名称：NPO 法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(1)職務の理解			
指導目標	① 介護保険制度で提供されるサービスの概要 ② 介護職員からの介護サービス ③ 利用者からの介護保険サービス ④ 介護の資格とキャリアシステム			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	3	3		講義内容：1) 多様なサービスと理解 介護保険制度サービスの理解 (居宅・施設)
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		講義内容：1) 介護職の仕事内容や働く現場の理解 介護職がどのような環境で、どのような形で仕事を行うか理解する 2) サービス提供者からの仕事の理解、 居宅・施設の多様な働く現場の仕事内容 居宅・施設でのサービス提供現場の具体的なイメージ 利用者の立場から各個人別の介護サービス 介護福祉制度システム 演習実施方法：「介護職の仕事について、班体制を用いてグループディスカッションを行う。
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：NPO法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(2) 介護職における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	① 人権の考え方を通じて人権尊重を考える。 ② 利用者の尊厳の概念に対するきずきを促す。 ③ QOLとノーマライゼーションの概念 ④ 虐待防止・身体拘束禁止について理解する。 ⑤ 人権擁護制度について理解を深める。 ⑥ 自立に向け残存能力の活用し個別の支援方法 ⑦ 介護予防を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	4	1	3	〈通信学習課題の内容〉 人権と尊厳の保持 ・ノーマライゼーション ・個人の尊厳と法制度 ・人権擁護の基本視点 講義内容：1) 人権と尊厳の保持 人権尊重の取り組みと基本的人権の保障 尊厳を支える介護を提供する。 2) QOLの考え方 介護職分野におけるICF QOLの考え方 3) ノーマライゼーション ノーマライゼーションの考え方 4) 虐待防止・身体拘束禁止 自立を妨げる虐待防止・身体拘束禁止の理解し 問題の発見につなげる。 5) 個人の権利を守る制度の概要 人権擁護制度を理解し、高齢者を擁護する支援を おこなう。個人情報保護法・成年後見制度、日常 生活自立支援事業 演習実施方法：「事例検討」よりグループディスカッションを班 体制で行う。
② 自立に向けた介護	3	1	2	〈通信学習課題の内容〉 介護における自立支援 ・ICFの考え方 ・介護予防について 講義内容：1) 自立支援 自立支援の理念をふまえ残存能力の活用し利用 者がその人らしい生活を個別に継続的に提供 する。 2) 介護予防 介護予防を理解し利用者の生活能力や意欲をひ きだしていく支援法 自立に向けたDVDを鑑賞する。
③ 人権啓発に係わる基礎知識	2	2	0	講義内容：人権問題を通じて根本から一人ひとりの利用者と接 することが出来る。 人権への取り組み等人権啓発を理解する。
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	NHK 福祉ビデオライブラリー DVD教材
------------	-----------------------

シラバス

指定番号

商号又は名称：NPO法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	① 介護職員の専門的な役割 ② 多職種との連携と協働でのチームケアの必要性の意義 ③ 介護職業倫理感の必要性 ④ 介護職員の安全確保とリスクマネジメント ⑤ 介護職員の安全衛生での健康管理			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	〈通信学習課題の内容〉 介護環境の特徴の理解 ・地域包括システムの役割と機能 ・多職種連携における役割分担 講義内容：1) 介護環境の特徴の理解 訪問介護と施設介護サービスの違い 利用者を地域で支援する専門知識 2) 介護の専門性 介護職の専門性の意義 介護理念の捉え方 多職種との連携と協働の必要性とチームケア 重要性の理解 3) 介護に関わる職種 異なる専門性を持つ多職種の理解 チームアプローチ
② 介護職の職業倫理	2	1	1	〈通信学習課題の内容〉 介護サービスの公共性と職業倫理 ・利用者の自己決定の尊重 講義内容：1) 職業倫理 職業倫理観の必要性 倫理綱領の説明 演習実施方法：事例検討によるグループワーク
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	0.5	0.5	〈通信学習課題の内容〉 介護における安全の確保 ・高齢者の3大事故について ・リスクマネジメント 講義内容：1) 介護労働における安全の確保 リスクマネジメントの習得 2) 事故予防、安全対策 介護職員の事故予防と安全確保 利用者の安全対策 3) 感染症対策 感染症の原因と経路、感染症の正しい知識
④ 介護職の安全	1	0.5	0.5	〈通信学習課題の内容〉 健康管理とストレスマネジメント ・介護職の健康管理 講義内容：介護職員の安全対策、感染症予防、健康管理 1) 介護職員のこころの健康管理 メンタルヘルスケア、ストレスマネジメント 2) 介護職員のからだの健康管理 腰痛予防、手洗い、うがいの励行 演習実施方法：手洗い手順
(合計時間数)	6	3	3	
使用する機器・備品等				

シラバス

指定番号 _____

商号又は名称：NPO 法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	①介護保険制度理念の理解 ②障がい者総合支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	0.5	2.5	〈通信学習課題の内容〉 介護保険制度 ・要介護、要支援の認例 ・地域支援事業 講義内容：1) 介護保険制度の創設の背景と目的 創設の背景 2) 介護保険制度の動向 介護保険の意義 3) 介護保険制度のしくみ① 介護保険制度のしくみの理解 ケアマネジメント 4) 介護保険制度のしくみ② 介護報酬、財源の理解、改正の必要性 5) 介護サービスの分類と種類 6) 介護サービスの内容とサービス事業者・施設 7) 保険給付以外の事業 地域支援事業、地域包括支援センター、保健福祉 事業
② 医療との連携とリハビリテーション	3	0.5	2.5	〈通信学習課題の内容〉 医行為と非医行為 ・医行為と非医行為の範囲 ・医療、看護の役割 講義内容：1) 介護における医療と福祉の連携 保険医療サービスと施設サービスの説明 居宅サービスと施設サービスの医療と福祉の連携 2) 介護職と医行為 介護の業務と医行為の説明 3) リハビリテーション リハビリテーションの説明
③ 障がい者総合支援制度及びその他制度	3	0.5	2.5	〈通信課題の内容〉 障がい者福祉制度の理念 ・障がい者の自立と社会参加 講義内容：1) 障がい福祉総合制度及び他制度 障がい者自立支援制度の理解 ICF 2) 障がい自立支援制度の基本的な構造 障がいの定義から障がい制度の理解 3) 障がい自立支援制度のしくみと運営の現状 制度の改正、障がいサービスの種類と内容とサービス利用、支給決定のプロセス、財源
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

指定番号

商号又は名称：NPO法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	① 利用者とのコミュニケーションで心理や人間関係を信頼関係にむすびつける必要であると促す。 ② チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解し報告、連絡、相談が必要であると促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	1	2	<p>〈通信学習課題の内容〉 介護におけるコミュニケーション ・介護におけるコミュニケーションの技法</p> <p>講義内容：1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 利用者へのコミュニケーションの能力への配慮 言語的コミュニケーション、非言語コミュニケーションの活用 2) コミュニケーション技法 利用者に応じた技法の習得 バイスティックの七原則 3) 道具を用いたコミュニケーション 失語症、難聴、視覚障がいに応じたコミュニケーション 4) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 利用者・家族それぞれの思いを把握する。 5) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <p>演習実施方法：グループでの高齢者、障害者を想定したコミュニケーションのとり方の演習 個別援助計画書の作成</p>
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	2	1	<p>〈通信学習課題の内容〉 介護におけるコミュニケーション ・チームアプローチとチーム連携</p> <p>講義内容：1) 記録による情報の共有化 記録の意義・目的 介護に関する記録の種類、個別援助計画書、事故報告書、ヒヤリハット、5W1H 2) 介護サービスにおける報告、連絡、相談 報告、連絡、相談の意義を理解する 3) コミュニケーションをうながす環境 ケアカンファレンスの重要性 情報の共有化 サービス担当者会議</p> <p>演習実施方法：記録用紙を利用した記録方法</p>
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

指定番号 _____

商号又は名称：NPO 法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	① 高齢者のこころとからだの変化を個人別に理解する重要性を学ぶ。 ② 高齢者の多い疾病の種類と症状や特徴、治療・生活上の留意点や訴えの理解を促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うこころと からだの変化と日常	3	1.5	1.5	〈通信学習課題の内容〉 老年期の発達とこころの変化 ・老年期の加齢、感覚、知的機能の変化 講義内容：1) 老化に伴う心身の変化 老化のメカニズム、寿命、特徴、知的能力 2) 老化に伴う心身の変化と日常生活 日常生活への影響、有訴率と通院率、老化現象
② 高齢者と健康	3	1.5	1.5	〈通信学習課題の内容〉 高齢者に多い病気の基礎知識 ・高齢者の身体的、精神的機能の変化 講義内容：1) 高齢者と健康 老人病、生活習慣病、五大死因 2) 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 老化に伴う疾患と生活習慣病の種類と症状
(合計時間数)	6	3	3	
使用する機器・備品等				

シラバス

指定番号

商号又は名称：NPO 法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	① 認知症の利用者の心理・行動より残された意欲・能力に着目し、その人の世界を理解する ② 認知症による障がいの理解を学ぶ ③ 複数の事例検討により、認知症の利用者の介護における原則を学ぶ			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	2	1	1	〈通信学習の内容〉 認知症ケアの理念 ・パーソンセンタードケア 講義内容：1) 認知症のケア 残された意欲、能力に着目した認知症ケアの重要性 パーソンセンタードケア
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	〈通信学習課題の内容〉 認知症の基礎知識 ・認知症とは何か？ 講義内容：1) 認知症の概念 認知症という疾患を理解する。認知症の診断法 2) 認知症による障がい 認知症の症状、原因疾患 3) 健康管理の重要性 栄養管理、清潔管理 演習実施方法：認知症の原因、症状、対応をグループワーク
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1	0.5	0.5	〈通信学習課題の内容〉 認知症に伴うこころとからだの変化 ・周辺症状 ・アクティビティ・ケア 講義内容：1) 中核症状、周辺症状、BPSD 2) 認知症の利用者への対応 コミュニケーションの原則、基本的なケア 生活改善 3) 認知症の利用者への対応 基本的な対応、受容、基本的ケア 演習実施：グループディスカッションによるロールプレイング
④ 家族への支援	1	0.5	0.5	〈通信学習課題の内容〉 認知症家族介護の現状の理解 ・家族介護者の介護負担 講義内容：1) 家族への支援 認知症の受容過程での援助法、事例検討 家族へのレスパイト必要性 演習実施方法：事例検討によるディスカッション
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

指定番号

商号又は名称：NPO 法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	① 介護における障がいの概念と ICF の理解 ② 障がいの医学的理解 ③ 家族への理解、かかわり支援の理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的知識	1	0.5	0.5	〈通信学習課題の内容〉 障がいの基本的理解 ・障がいとは 講義内容：1) 障がいの概念と ICF の考え方 2) 障がい者の基本理念 ノーマライゼーション 高齢者と障がいの違い 演習実施方法：事例を使用して ICF とノーマライゼーション 思想からみでの障がいの理解
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	0.5	0.5	〈通信学習課題の内容〉 障がいの概念 ・ ICF、ICIDH ・ インクルージョン 講義内容：1) 障がいのある人の理解、障がい者の特性 身体障がい、知的障がい、精神障がい、その他の障がい（高次脳機能障がい、発達障がい） 演習実施方法：障がいのある人の参加制約と公的サービス
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5	〈通信学習課題の内容〉 家族への支援 ・ 障がいの受容の理解 講義内容：1) 家族の心理 障がい受容の重要性 2) 家族への支援 介護負担の軽減
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

指定番号

商号又は名称：NPO法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	① 専門職として法律上の規程からの介護の目的、倫理を学ぶ ② 高齢者や障がいのさまざまなこころの変化を把握し、記憶、意欲の基礎知識とその人らしく生きていく為の生きがいや意欲について学ぶ ③ 高齢者の人体の構造や働きについて知識をえる。からだのしくみを学習し高齢者の生活を支援する介護を学ぶ			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	4	0.5	3.5	〈通信学習課題の内容〉 介護の基本的な考え方 ・理論と法的根拠に基づく介護 講義内容：1) 理論と法的根拠に基づく介護 介護に関する専門的知識・倫理に基づく介護 (ICFの視点の基づく生活支援、我流介護の排除) 演習内容：ICFの活用方法
② 介護に関するこころのしくみの基礎的知識	5	0.5	4.5	〈通信学習課題の内容〉 高齢者の心理 ・加齢に伴う変化とその心理 ・自己実現と生きがい作り 講義内容：1) 学習と記憶の基礎知識 記憶の理解 2) 感情と意欲の基礎知識 感情について学ぶ。意欲の動機づけ 3) 自己概念と生きがい 4) 老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	0.5	3.5	〈通信学習課題の内容〉 人体の名称とはたらき ・運動動作に関する基礎知識 講義内容：1) 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 2) 骨・関節・筋に関する基礎知識 3) 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 4) 自律神経と内部器官に関する基礎知識 5) こころとからだを一体的にとらえる
(合計時間数)	13	1.5	11.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

指定番号 _____

商号又は名称：NPO 法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	① 専門職として法律上の規程からの介護の目的、倫理を学ぶ ② 高齢者や障がいのさまざまなこころの変化を把握し、記憶、意欲の基礎知識とその人らしく生きていく為の生きがいや意欲について学ぶ ③ 高齢者の人体の構造や働きについて知識を得る。からだのしくみを学習し高齢者の生活を支援する介護を学ぶ			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
④ 生活と家事	3	3	/	講義内容：1) 家事と生活の理解 2) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 生活歴、自立支援、予防対応、主体性・能動性を、 引き出す、多様な生活習慣、価値観 演習実施方法：ベッドメイキング
⑤ 快適な居住環境整備と介護	3	3		講義内容：1) 快適な居住環境に関する基礎知識 2) 高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具 に関する留意点と支援法 演習実施方法：福祉用具の活用法
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	収納式洗えるふとんベッド、簡易浴槽
------------	-------------------

シラバス

指定番号

商号又は名称：NPO 法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと自立に向けた介護			
指導目標	<p>① 事例をとおして整容の目的や支援方法を学ぶ。また身支度の意義と目的を理解したうえで介護を提供できるよう学ぶ。</p> <p>② 高齢者・障がい者に安全な移動・移乗を可能にするため介護技術や福祉用具について学ぶ。そして介護職員の介護の負担のかからない介護技術を習得する。</p> <p>③ 食事に関する介護職員の業務は、高齢者にとって生活基礎となる大切なものであるため、高齢者のからだの変化を知り食事の介護技術を食事という生活の援助と捉え、その生活を支援する技術の根拠を身近に理解する。</p> <p>I) 入浴や清潔保持は、高齢者のからだだけでなく、こころにとっても大切である。しかし、からだへの負担が大きい介護であるので、安全に介護するよう技術を習得する。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>講義内容：1) 整容に関する基礎知識</p> <p>2) 整容の支援技術、洗面、整髪、爪の手入れ、化粧、髭剃り、衣類の洗濯・着脱</p> <p>衣類の着脱場面における安全への配慮</p> <p>自助具・補助具の利用、口腔ケア</p> <p>演習事例検討：顔の拭き方、爪の手入れ、衣類の着脱、口腔ケアと観察、口腔リハビリテーション</p> <p>事例よりワーク 1~3 検討</p>
⑦ 移動・移乗の関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<p>講義内容：1) 移動・移乗に関する基礎知識</p> <p>廃用症候群、まひ、関節可動域、ボディメカニクス、良肢位、体位</p> <p>2) さまざまな移乗・移動に関する道具とその活用</p> <p>ベッド、車椅子</p> <p>3) 介護職員にとって負担の少ない移動移乗の支援法</p> <p>介護者の負担の少ない介助</p> <p>4) 移動と社会参加の留意点と支援体位変換技術</p> <p>演習実施方法：安楽な体位の保持技術、体位変換、車いすの介助、歩行介助</p>
⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<p>講義内容：1) 食事に関する基礎知識</p> <p>食事をする意味、咀嚼、嚥下のメカニズム、栄養素とその働き</p> <p>2) 食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ</p> <p>事に関連した福祉用具の活用と介助方法</p> <p>3) 楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>高齢者の食事、調理法、疾患と食事</p> <p>4) 食事と社会参加の留意点と支援</p> <p>誤嚥性の留意点</p> <p>演習実施方法：食事介助（片麻痺、視覚障がい）</p> <p>ワークの検討</p>
⑨ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<p>講義内容：1) 入浴、清潔保持に関する基礎知識</p> <p>2) さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法</p> <p>3) さまざまな入浴・清潔を保つための方法</p> <p>体調の確認、羞恥心や遠慮への配慮</p> <p>4) 楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>演習実施方法：浴槽を利用した入浴介助、全身清拭、陰部洗浄、ケリーパッドを利用した洗髪、目・鼻腔・耳・爪の清潔、足浴、手浴</p> <p>事例問題 1~3 の検討</p>

(合計時間数)	27	27		
---------	----	----	--	--

使用する機器・備品等	収納式洗えるふとんベッド、車いす、簡易浴槽
------------	-----------------------

シラバス

指定番号 _____
商号又は名称：NPO 法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと自立に向けた介護			
指導目標	① 排泄は人間が生きていく中で、大切な行為であるが人に見られたくない行為でもある。排泄の意義と目的を理解したうえで専門的に細やかな介護を提供できるよう学ぶ。 ② 睡眠の基礎知識として睡眠にメカニズムを学習し、利用者に心地よい睡眠を確保する環境と用具の活用方法を学ぶ。そして睡眠を阻害する環境およびこころとからだの要因を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑩ 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		講義内容：1) 排泄に関する基礎知識 排泄とは、排泄のメカニズム 2) さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 3) 爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 演習実施方法：ポータブルトイレ、片まひのトイレ介助、排泄介助、紙おむつの交換 ワーク 1~5
⑪ 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		講義内容：1) 睡眠に関する基礎知識 睡眠の大切さを学ぶ 2) さまざまな睡眠環境に関する道具とその活用 寝室環境、寝具、福祉用具の活用 3) 快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 安楽な姿勢、褥そう予防 演習実施方法：演習 1~3 の活用
(合計時間数)	13	13		

使用する機器・備品等	紙おむつ、ポータブルトイレ
------------	---------------

シラバス

指定番号 _____

商号又は名称：NPO 法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(9) 心とからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	①死にゆく人の尊厳を守り、その人らしい死をむかえるための介護をするために終末期の基礎知識を習得し、死にいたる過程とともに、死を迎える高齢者とその家族の心理を理解し、支える介護方法を学ぶ。チームケアの必要性を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑫ 死にゆく人に関連した心とからだのしくみと終末期介護	6	6		講義内容：1) 終末期に関する基礎知識と心とからだのしくみ 終末期ケアとは 2) 「死」に向き合うこころの理解 3) 苦痛の少ない死への支援 演習実施方法：演習に基づいて介護職員の役割を理解 ロールプレイング
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

指定番号 _____

商号又は名称：NPO 法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(9) 総合生活支援技術演習			
指導目標	① 生活場面、障がい状況の異なる利用者の事例を通し生活支援を提供する理解と技術の習得、利用者の心身状況にあわせた介護を提供する視点を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑬ 介護過程の基礎的理解	5	5		1) 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 2) 骨・関節・筋に関する基礎知識 3) 中枢神経系と内部器官に関する基礎知識 4) 自律神経と内部器官に関する基礎知識 5) こころとからだを一体的にとらえる
⑭ 総合生活支援技術演習	5	5		演習実施方法：事例検討 (ア) 女性、右まひ、失語症、居宅サービス (イ) 女性、アルツハイマー型認知症、グループホーム (ウ) 女性、独居、施設サービス (エ) 女性、糖尿病、特別養護老人ホーム、寝たきり
(合計時間数)	10	10		
((9)総合計時間数)	75	63.5	11.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

指定番号 _____
商号又は名称：NPO 法人れんげメディカルグループ

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	<p>① 在宅、施設の何れの場合であっても、「利用者の生活の根拠に共に居る」という意識をもって、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉使い、応対の態度等の礼節を含む。）を行い、業務における基本的態度の視点をもって介護を行えるよう理解を促す。</p> <p>② 研修を通じて学んだことを、今継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。</p> <p>③ 修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につくべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。</p> <p>④ 最新知識の付与と、次ステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が確認できるよう促す。</p> <p>⑤ 介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。（視覚障がい教材、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等）</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2	2	/	<p>①研修を通して学んだこと</p> <p>②今後継続して学ぶべきこと</p> <p>③根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）</p> <p>演習実施方法：グループにより振り返り法ワークを実施</p>
② 就業への備えと研修修了後における実例	2	2	/	<p>①継続的に学ぶべきこと</p> <p>②研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例(OFF-JT,OJT)を紹介</p> <p>演習実施内容：多種の介護事業所の職員より現場実例説明会</p>
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	
------------	--